

図書館通信 — 41 —

1977. 9

附属図書館充実・発展への期待

前館長 中 沢 正 寿

6月末日任期満了辞任にあたって、まず、期中の全学の皆さんの理解と協力に対し、心から篤く御礼申し上げます。そして、成人期としての昭和五十年代の新しい発展段階に入る附属図書館が、いっそうの充実・発展することを期待し、ここに検討すべき課題と、解決すべき問題とを摘記してみます。全学の批判を通しての理解と協力が得られ、基本的問題の解決に少しでも役立てば幸せと思います。

1. 構造・形式・量から機能・運営・内容・質へ

4月1日からの部課長制施行による事務機構の整備、年度内における本館の約3,000㎡の増築は、構造・形式・量における画期的拡充整備といえます。47年浜松分館の落成と48年磐田分館（農学部）の統合とは、本館（中央館）と分館1との附属図書館の構成上の安定化をもたらしています。これらの基礎の上に、機能・運営・内容・質的側面から、2項以下に挙げる視点から検討することが重要な課題となります。そしてまず予算面で、このような検討に対応しながら、（1）人件費＋運営費＋図書資料購入費＋設備費＝総額、の実践的必要にもとづく確立、（2）その積算校費総額に対する比率による相対的安定化、（3）本省配分と積算校費抛出の比率の現実的安定化、（4）負担と使用両面における部局間公平感の形成と、維持費検討委員会の発展的解消、等が解決すべき問題となるといえます。

2. 大学附属図書館の使命・機能の検討

附属図書館は、大学の本質的使命である研究と教育とに対応し、①研究図書館の機能と②学習図書館の機能とを發揮することによって、これに奉仕することを使命としています。このような機能發揮による奉仕的使命の達成について、具体的、実践的、業務的視点からの検討が重要課題でもあります。この検討に対応しながら、（1）研究図書館と学習図書館とのバランス、（2）研究図書館における学術情報と情報センター的役割の強化、

（3）学習図書館における延長開館問題にかかわる図書館資料による学習と学習室の利用、権利的要求と利用度等にもとづく必要度等の概念の明確化、等が解決すべき問題となるといえます。

3. 集中管理方式の機能・運用的整備

静大附属図書館も他の国立大学附属図書館と同様に、中央館、分館、学内で制度的に認めている部局図書（資料）室とこれに準ずるものを総称して（今は本館と浜松分館だけ）附属図書館といい、集中管理方式による経営として創設され、発展してきています。ところで、集中管理方式とは、図書館の経営活動を、管理の中央（集権）化と、奉仕の分散化とを原則として遂行する方式です。静大附属図書館は創設以来、昭和二十年代、三十年代、四十年代の各発展段階を通じて、奉仕までも集中化の原則に力点を置きながら、その基礎の確立に努力してきたといえます。しかし今や大学院の設置、学科又は課程の増設、専門を異にする学部・教官・学生から構成される総合大学の性格等から、多種多様な図書館資料の増大と奉仕活動の多様化が進んできています。この実態を検討し把握することが重要な課題となり、これに対応して、（1）管理の集権と分散、奉仕の分散の強化、（2）部局図書（資料）室との連関の密度化、（3）これらによる集中管理方式の機能・運用・内容・質的整備、等が解決すべき問題となりましょう。

4. 業務機構と職員の質的充実

国大協第2次報告書（昭和50年）では、大学附属図書館の業務とその組織は、その使命・機能から一種のサービス企業体にたとえることができるといっています。その上、日常的業務を執行する行政組織でもあります。部課長制による事務機構の整備とともに、業務組織体、行政組織体としての性格の検討と自覚が重要課題であると思われます。この検討と対応しながら、（1）各業務の独自性の洗い直しと、業務間の有機的連関と調整の強化、（2）一般事務職員、司書的図書館専門職員・技術職員・労務職員、それぞれの期待される役割と資質、意欲、研修、相互理解と協力、等が、事務部自から解決すべき問題となるといえます。

第24回国立大学図書館協議会総会 に参加して

附属図書館事務部長 佐藤 信 男

私は本年4月に附属図書館事務部長に就任した者ですが、中沢館長と標記協議会に参加しました。私の従来経験した全国会議には学生部課長会議・庶務部課長会議がありますが、いずれも本省招集でありました。これに比して、本協議会は国立大学が協力して自主的に運営し、本省課長以下関係者をオブザーバーとして招くところに図書館業務を初めて経験する私にとって印象深いものでありました。

総会は去る6月2日(木)～3日(金)の両日、東京・神田の一橋講堂で開かれた。初日は型どおり会長挨拶、議長団・研究会会座長及び分科会主査を選出した後、一般経過報告、各地区協議会報告、図書館機械化・大学図書館改善・図書館相互協力・外国雑誌の各調査研究班及び大学図書館基本問題特別委員会の報告等が行われた。続いて理事及び監事の選出、調査研究班及び特別委員会の委員選出、52年度予算案の審議、大学図書館国際連絡委員会国立大学委員館の選出等の手続的なことが協議された後、研究会が行われた。2日目は3つの分科会で、各地区などから提案された議題を協議し、その後全体会議を開いて分科会のとりまとめを行った。

初日の研究会のテーマは「大学図書館の基本問題をめぐって」である。これまで大学図書館基本問題特別委員会が検討し、4月末に最終的にとりまとめたもので、次の7項目を中心に討論された。即ち1) 大学図書館の性格とその大学における地位役割 2) 大学図書館管理体制及び財政的問題について 3) 大学における中央図書館、部局図書館(室)それぞれの地位役割及びそれらの相互関係について 4) 附属図書館に教官(専任)定員及び「専門員」(仮称)を置くことの可否、その他図書館定員をめぐる諸問題について 5) “機械化”及び“機械化ネットワーク”強化の具体化を推進する諸問題について 6) 選書体制をめぐる諸問題について、特に教官等ユーザーとの関係 7) 相互協力の具体化及び共同利用保存図書館をめぐる諸問題、である。

2日目の分科会で取りあげられた議題は次のと

おり。第一分科会(一般事項及び運営に関する問題) 図書館資料の収集・選択について。中央館と分館、部局図書館(室)との関係について。「国立医学図書館」(仮称)及び資料センター設置について。外国学術雑誌地区センターの設置と経費の補助について。等。第二分科会(予算・人事) 図書館維持費の増額について。図書購入費(学生用図書購入費・参考図書購入費・外国雑誌購入費)の増額について。「共同利用図書購入費」の新設について。図書館職員の定員増について。時間外開館のための整備について。事務機構の整備と図書館職員の待遇改善について。等。第三分科会(サービス及び技術的問題) 基本的文献の整備・利用に関する図書館の相互協力。図書館における身障者学生の受入対策について。「学術雑誌総合目録人文科学欧文編(改訂版)」の早期刊行について。

以上が総会のあらましです。総会に出席して得た知識を、中沢館長が本通信40号で述べられた“新発展段階を迎える附属図書館”の中にあるように、本学図書館の充実発展のために生かしながら、一步一步着実に現実を見つめつつ努力していかねばと考えております。なお、約3千平方メートルの増築にあたって、分科会の最後の項目にある身障者学生の受入れ対策として、身障者用エレベーター等を計画していることをつけ加え、今後とも全学の教職員・学生諸君の絶大な御協力と御支援を切望して報告に代える次第であります。

■教官著作寄贈図書(本館)

池田隆正(教育学部)

「現代への問い—自然・人間・歴史—」 池田隆正等著 (理想社 昭和49)

村尾勇之(教育学部)

「家庭科教育における消費者教育」 村尾勇之等著 (学芸図書 昭和51)

浅井 忠(教養部)

「時の鐘時の太鼓」(昭和48) 「時報時年表」(昭和50) 「時計関係年表上・下巻」(昭和51)

静岡県地学会(教育学部)

「東海自然歩道の地学案内—朝霧高原から鳳来寺山まで—」 土隆一等監修 岩橋徹・大塚謙一・木宮一邦・徳山明・半田孝司等執筆

(静岡県地学会 昭和51)

※以上の図書は9月末日まで運用係カウンターに備付けてあります。御利用下さい。

利 用 統 計 昭和51年度(本館)

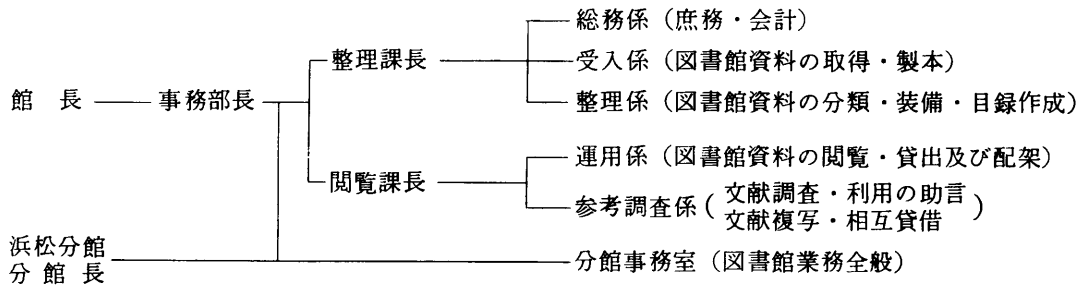
〈表1〉利用者別統計

区 分	奉仕対 象数(人)	入館者 数(人)	閱 覧 出納冊	貸 出				文 献 複 写		相互貸 借(冊)		
				指定冊	開架冊	出納冊	合計冊	依頼件	受付件			
学 部	人文	439 (8.7%)	7,580 (11.8%)	1,939 (37.0%)	400 (6.9%)	1,394 (17.8%)	581 (36.1%)	2,375 (15.6%)	935 (31.9%)	35 (21.0%)	17 (65.4%)	
	教育	907 (17.9%)	11,713 (18.2%)	1,233 (23.5%)	846 (14.7%)	1,741 (22.3%)	492 (30.5%)	3,079 (20.2%)	788 (26.9%)	58 (34.7%)	5 (19.2%)	
	理	280 (5.5%)	3,081 (4.8%)	98 (1.9%)	562 (9.8%)	480 (6.1%)	27 (1.7%)	1,069 (7.0%)	109 (3.7%)	62 (37.1%)	1 (3.9%)	
	農	278 (5.5%)	728 (1.1%)	4 (0.1%)	56 (1.0%)	133 (1.7%)	2 (0.1%)	191 (1.3%)	41 (1.4%)	1 (0.6%)	0	
	教 養	人文	482 (9.5%)	9,179 (14.3%)	570 (10.9%)	556 (9.6%)	1,088 (13.9%)	181 (11.2%)	1,825 (12.0%)	297 (10.1%)	1 (0.6%)	3 (11.5%)
		教育	938 (18.6%)	12,120 (18.8%)	570 (10.9%)	1,041 (18.0%)	1,271 (16.3%)	113 (7.0%)	2,425 (15.9%)	167 (5.7%)	0	0
		理	359 (7.1%)	6,287 (9.8%)	248 (4.7%)	687 (11.9%)	627 (8.0%)	60 (3.7%)	1,374 (9.0%)	240 (8.2%)	0	0
		農	320 (6.3%)	3,511 (5.5%)	48 (0.9%)	255 (4.4%)	385 (4.9%)	28 (1.7%)	668 (4.4%)	49 (1.7%)	0	0
		工	878 (17.4%)	9,244 (14.4%)	359 (6.9%)	1,339 (23.2%)	620 (7.9%)	56 (3.5%)	2,015 (13.3%)	207 (7.0%)	0	0
	大学院生 専攻生等	176 (3.5%)	867 (1.3%)	169 (3.2%)	31 (0.5%)	89 (1.1%)	72 (4.5%)	192 (1.3%)	99 (3.4%)	10 (6.0%)	0	
	小 計	5,057 (100.0%)	64,310 (100.0%)	5,238 (100.0%)	5,773 (100.0%)	7,828 (100.0%)	1,612 (100.0%)	15,213 (100.0%)	2,932 (100.0%)	167 (100.0%)	26 (100.0%)	
	教 職 員	教 官	/	/	/	/	168	5,381	5,549	809	964	68
職 員		/	/	/	/	143	395	538	—	114	4	
研 究 室		/	/	/	/		4,331	4,331	/	/	/	
小 計		/	/	/	/	311	10,107	10,418	809	1,078	72	
学 外 者	/	161	186	/	/	/	/	/	/	/		
合 計	—	64,471	5,424	5,773	8,139	11,719	25,631	3,741	1,245	98		

〈表2〉分類別統計

区 分	閱 覧					貸 出			
	指 定	参 考	開 架	出 納	合計冊	指 定	開 架	出 納	合計冊
0 (総記)	65 (0.4%)	1,524 (16.1%)	616 (2.8%)	495 (9.1%)	2,700 (5.1%)	20 (0.3%)	173 (2.1%)	188 (1.6%)	381 (1.5%)
1 (哲学)	654 (4.0%)	659 (7.0%)	1,738 (7.9%)	287 (5.3%)	3,338 (6.3%)	194 (3.3%)	544 (6.7%)	1,105 (9.4%)	1,843 (7.2%)
2 (歴史)	1,019 (6.2%)	895 (9.5%)	2,486 (11.3%)	375 (6.9%)	4,775 (9.0%)	575 (10.0%)	1,000 (12.3%)	873 (7.5%)	2,448 (9.6%)
3 (社会)	1,810 (11.1%)	1,872 (19.8%)	4,710 (21.5%)	985 (18.2%)	9,377 (17.6%)	806 (14.0%)	2,112 (26.0%)	2,348 (20.0%)	5,266 (20.5%)
4 (自然)	9,766 (59.7%)	3,081 (32.7%)	6,161 (28.1%)	225 (4.2%)	19,233 (36.2%)	2,896 (50.2%)	1,964 (24.1%)	2,256 (19.3%)	7,116 (27.8%)
5 (工学)	853 (5.2%)	115 (1.2%)	423 (1.9%)	60 (1.1%)	1,451 (2.7%)	410 (7.1%)	166 (2.0%)	352 (3.0%)	928 (3.6%)
6 (産業)	57 (0.3%)	110 (1.2%)	266 (1.2%)	97 (1.8%)	530 (1.0%)	39 (0.7%)	153 (1.9%)	563 (4.8%)	755 (2.9%)
7 (芸術)	179 (1.1%)	174 (1.8%)	1,274 (5.8%)	58 (1.1%)	1,685 (3.2%)	58 (1.0%)	284 (3.5%)	475 (4.1%)	817 (3.2%)
8 (語学)	354 (2.2%)	394 (4.2%)	319 (1.5%)	176 (3.2%)	1,243 (2.3%)	244 (4.2%)	171 (2.1%)	585 (5.0%)	1,000 (3.9%)
9 (文学)	1,593 (9.8%)	609 (6.5%)	3,956 (18.0%)	881 (16.2%)	7,039 (13.2%)	531 (9.2%)	1,572 (19.3%)	1,599 (13.6%)	3,702 (14.4%)
雑 誌	/	/	/	1,785 (32.9%)	1,785 (3.4%)	/	/	1,375 (11.7%)	1,375 (5.4%)
合 計	16,350 (100.0%)	9,433 (100.0%)	21,949 (100.0%)	5,424 (100.0%)	53,156 (100.0%)	5,773 (100.0%)	8,139 (100.0%)	11,719 (100.0%)	25,631 (100.0%)

附属図書館事務組織図 (昭和52年4月1日、課設置)



■附属図書館委員会構成委員 (昭和52年度)

図書館長	中沢正寿 (6月30日まで)	
	渡辺安夫 (7月1日から)	
浜松分館長	井本文夫	
人文学部	原秀三郎	名和鉄郎
教育学部	江草研介	棚橋克弥
理学部	石井正	渋谷元一
工学部	鈴木久喜	
農学部	桐生司一郎	岡崎光
教養部	釜屋修	伊原弘介
電子研	安藤隆男	助川徳三
大学院電子科学研究科	熊川征司	岡本尚道
法経短大	青木義明 (オブザーバー)	
事務局長	根本松彦	
図書館事務部長	佐藤信男	

関係の項目について、討議することとした。
(第9回) とき: 52・2・23 ところ: 本部

- (1) 図書館の基本問題について、利用面の学生用図書、性格、運用、利用の実態、予算の配分及び負担の基準について、学部の図書委員会等で検討し、その結論、意見等を持ち寄り検討することとした。分室資料室等については、各学部の実態を報告することとした。運営面の負担額、負担率について図書館維持費検討委員会にて検討することとした。

〔昭和52年度〕

(第1回) とき: 52・5・9 ところ: 本部

昭和52年度の指定図書について、検討の上、昭和52年度も引き続き前年度に準じ指定図書制度を実施することとした。

〈本館の増築〉

昭和47年からの念願であった本館の増築が昭和52年度工事として認められ、昭和53年3月完成をめどに着工しました。規模は、鉄筋コンクリート造、7階建、延面積約3,000㎡で1階から3階までは書庫、4階は事務室、5階は館長室、地方資料室など、6階は会議室、視聴覚室など、7階は倉庫となります。昭和43年に大谷地区に移転以来事務室などの管理機能は、増築予定部分に含まれたため、館内各所に分散のやむ無きに至り、機能的な運営に苦慮してきましたが、増築により一体的に利用でき図書館利用が促進されましよう。

〈お知らせ〉 (本館)

- (1) 前期試験のため、開館時間を延長します。
期間 9月5日(月)～24日(土)
時間 月～金 17:00～19:30
土 12:00～16:00

(2) 整理済図書連絡通知について

整理(分類・目録・ラベル貼付作業等)の終わった図書は、そのつど物品請求書(4枚綴)の1枚にその図書の請求記号を記入して、それを教官名または教室名宛の送付によってお知らせします。

■昭和52年度編集委員

岡崎(農学部)・谷本(教養部)
前畑・影山・袴田・望月・岩本・山本(図書館)

■附属図書館委員会報告

〔昭和51年度〕

(第6回) とき: 51・12・20 ところ: 本部

- (1) 大学院電子科学研究科の図書館への加入について、基本的に昼間学部と同様に加わることが望ましいとの意見の一致をみた。図書館委員会規則が改正されるまでの間大学院電子科学研究科から少なくとも1名は出席願うこととした。
- (2) 図書館の基本問題について検討し、次回以降議論をまとめる方向で努力する。静岡大学将来構想委員会への提出項目に「大学院の教育研究に対する図書館の充実」という一項目を追加することとした。

(第7回) とき: 52・1・10 ところ: 本部

- (1) 本省から追加配分された学生用図書購入費について検討し、第一次配分と同様本館へ64.4%、分館へ20.1%、法経短大へ6.2%、工業短大へ9.3%配分することに決定した。

(第8回) とき: 52・1・31 ところ: 本部

- (1) 図書館の基本問題の具体的に取り上げる事項として、Ⅰ利用面、Ⅱ運営面、Ⅲ本館対分館の